

2022年11月30日（水）19:45～21:15

国際医療福祉大学IUHW大学院公開講座

前例を超えて、新たな前例を創りたい!!

ゲーム×アクセシビリティ の新たな可能性

愛知教育大学

特別支援教育講座 准教授 相羽 大輔

aiba@aecc.aichi-edu.ac.jp



自己理解・まえおき

自己紹介

誕生：アルビノによる先天性弱視
幼～小：地域の小学校（弱視学級に通級）
中～高：筑波大学附属盲学校（現 視覚特別支援学校）
大学：桜美林大学健康心理学科
大学院：筑波大学大学院障害科学専攻（博士）
就職：前 慶應義塾大学（デジタル教科書研究に従事）
現 愛知教育大学特別支援教育講座

障害の伝え方、交流及び共同学習、心のバリアフリー、特別支援教育におけるICTやゲームの活用等、様々なテーマで研究・実践をする傍ら、愛知～東京にいる地域の視覚障害児の支援に携わっています。

アルビノとは (相羽・矢吹, 2013)

(1) アルビノ (指定難病164) とは

全身、あるいは、目のメラニン色素が作れない、わずかししか作れない状態で、目に症状が限定される眼白子症と、目と全身に症状が出現する眼皮膚白子症 (チロチナーゼ陽性型・チロチナーゼ陰性型を含む) に大別できる。

(2) 遺伝と種類について

- ・ 二万人に1人の割合で生まれる。
- ・ 50～70人に1人がアルビノ遺伝子を持つ。
- ・ 当事者からアルビノが生まれるとは限らない。
- ・ 中には、メラニン色素を蓄積できる人もいる。

アルビノとは (つづき)

(3) 主な症状

- ・ 眼の問題：（視力低下、眼振、羞明など）
- ・ 皮膚の問題：日焼けをしやすい、紅斑
- ・ 外見目の問題：
髪の色：白～金～赤茶
肌：色白
目：灰、茶、青など

いわゆる、ビジブルな障害とインビジブルな障害
（視覚障害：弱視・ロービジョン）のある状態です
。見え方としては……

アルビノの関連情報



日本アルビニズムネットワーク



川名 (2013)



石井 (2017)



アルビノの児童とまぶしさ



アルビノ と 偏見

2022年11月9日 難病「アルビノ」見た目の



【めざさん】理由問題と関心問題

健康問題と闘う井原由佳さん【あざまし8】

2022年11月9日 謝南「フルビノ」見た目の

研究者という生き方を選んだ理由

1. インビジブルな障害者の生きにくさ
 - : 障害をうまく伝えられなかった自分
 - : 障害のある人となない人の橋渡しがしたい自分
2. たくさんの視覚障害児・者を助けたい
 - : 学校の先生では全国区で活動できない
 - : 学校の先生ではできることに限りがある

参考：私と障害開示

(川名, 2013) より一部抜海

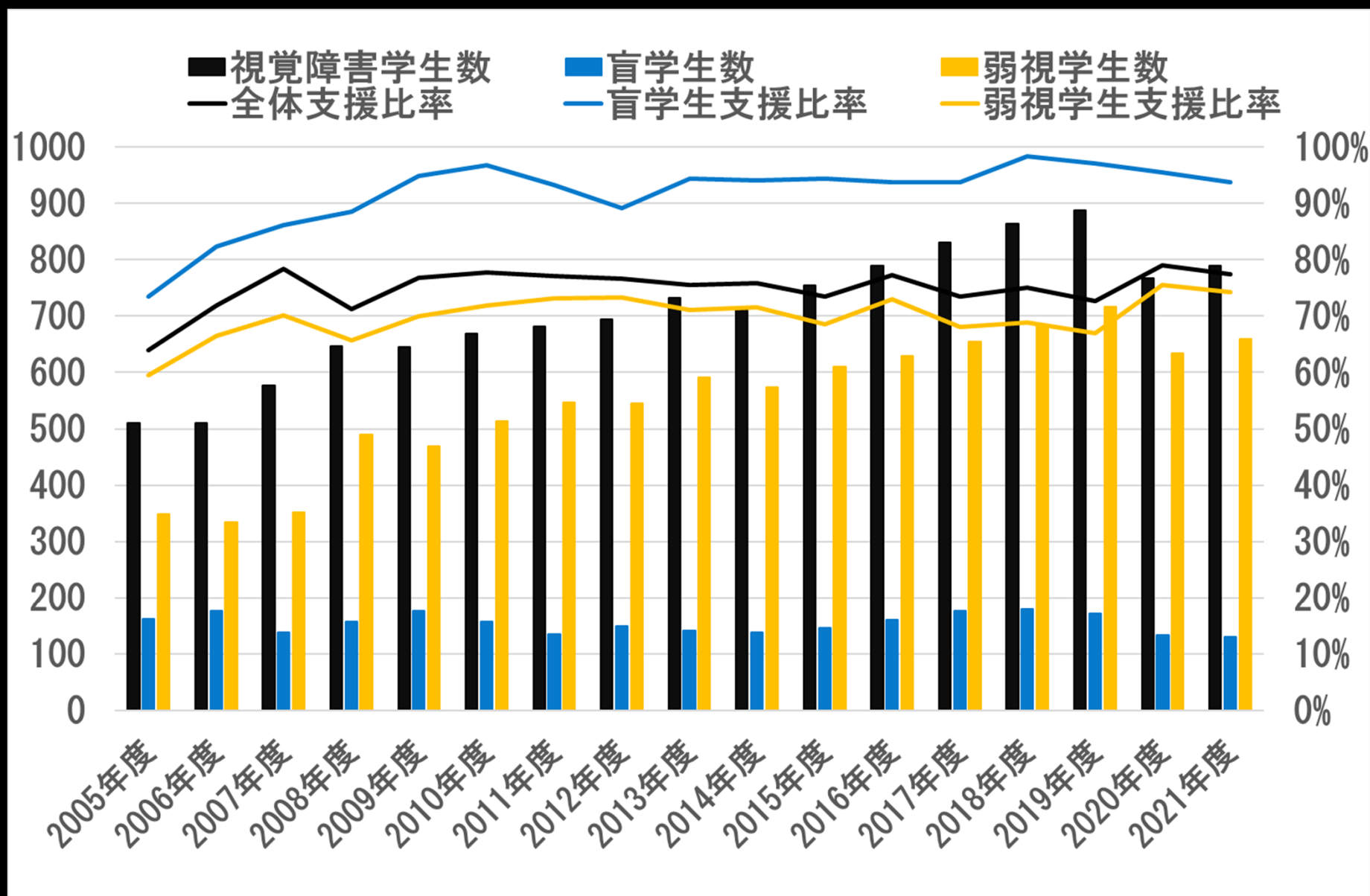
大学生のころ、毎月のように仲のいい友人たちとディズニーランドやディズニーシーに遊びに出かけた。その日も親しい友だち数人と東京ディズニーランドに繰り出していた。アトラクションをいくつか楽しんだあと、みんなでキャラクターグッズを売る店を冷かしていたときのことだ。周囲がにわかに騒がしくなった。「あっ、ミッキーだ」 仲間の一人が声を上げるや外に駆け出した。ほかの友人たちもあわてて身を翻す。大輔は店に取り残された。いったん友人の姿を見失うと、追いかけるのは困難だ。置いてきぼりになって、悲しくなった。楽しい場所に来れば、みんなわくわくする。僕が見えないことを忘れてたって仕方ない。頭ではわかっているけど、悲しいことにちがいはなかった。声をかけてくれればいいのに。そんな思いが胸をよぎる。しばらくして友人たちは店にもどってきた。「ごめん、ごめん」。謝られた大輔はまったく気にしていないふりをした。「ひと声かけてほしかった」という言葉は呑み込んだ。

参考：私と障害開示

(川名, 2013) より一部抜海

数日後、大の親友が近づいてきて語りかけた。「大輔って、うれしいことは言ってくれるけど、悲しかったり、苦しかったり、困っているときに、どうして言ってくれないんだ。親友として悲しいよ。自分はそう感じたときは正直に話してるのに、大輔はそうじゃない」友の言葉は身に染みた。確かに言いたいことが言えないなんて、友だちじゃない。それから少しずつ本音を言うようになった。ディズニーランドでの出来事は忘れがたいものとして記憶に刻まれた。大輔は、それまで自分の障害を上手に説明して助けを求めることができる人間だと自負していた。しかし、そんなに簡単に伝えられるものではないと思い知らされた。親しくなればなるほど相手への期待が高まり、求めることも多くなる。それをそのまま伝えていいものかどうか。障害があることをどんなふうに説明すれば助けを受けやすくなるのだろう。障害のある者とない者の間に横たわるぎごちなさを、どうすれば取り除くことができるのだろう。

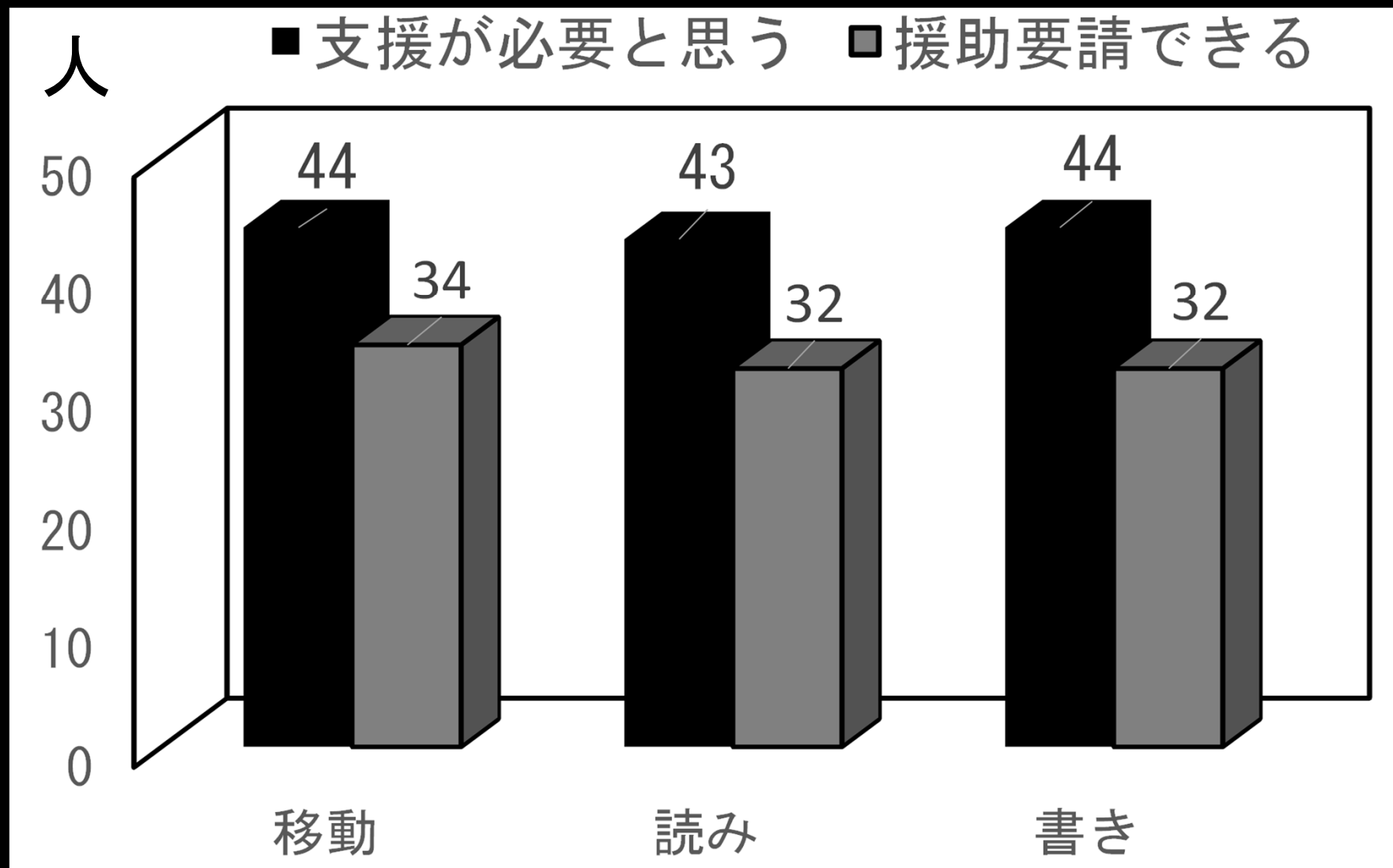
日本学生支援機構による実態調査



点字使用者よりLV者は援助要請できてない？

LV学生の支援ニーズと援助要請

(相羽ら, 2013) を改編 n=49



支援が必要でも要請できない人が一定数

障害開示・援助要請の心理学的な研究は続けていますが、今は、数少ない視覚障害領域の教員養成に携わる大学教員として、地域の視覚障害教育の基盤として、子どもたちを支え、元気にすることを一番にしています。当事者・研究者だからできること、子どもファーストが何かを考え、日々、実践をしています。

ゲーム×アクセシビリティの可能性

--視覚リハ・教育臨床への応用--

ポイント

見えない人や、見えにくい人は、そもそもゲームを遊ぶことができるのでしょうか？

百聞は一見に如かずということで、まずは実際の様子をご覧ください!!

音でスマブラを遊ぶ!!

点字使用の児童が、2台のスピーカーを設置し、音を手掛かりに、対戦格闘ゲームで遊ぶ様子です。



G-1グランプリ2021 入賞作品

ポイント

ゲームを楽しむための工夫には、どのようなものがありますか？

私たちは、ゲームがしたいというたったそれだけのモチベーションで、あの手、この手の工夫しています。

ゲームと様々な工夫の事例紹介

【点字使用者・音声ユーザーの工夫】

1. 音を手掛かりに遊ぶ
2. 読み上げ等のアプリを使う
3. 攻略サイト等の情報をヒントにする
4. 見える人の目を借りる

【ロービジョン者の工夫】

2. 視覚補助具等を使う
2. アクセサリー等を駆使する

【アクセシビリティ】

1. ゲーム機本体の機能
2. ゲームソフト固有の機能

点字使用者・音声ユーザーの工夫

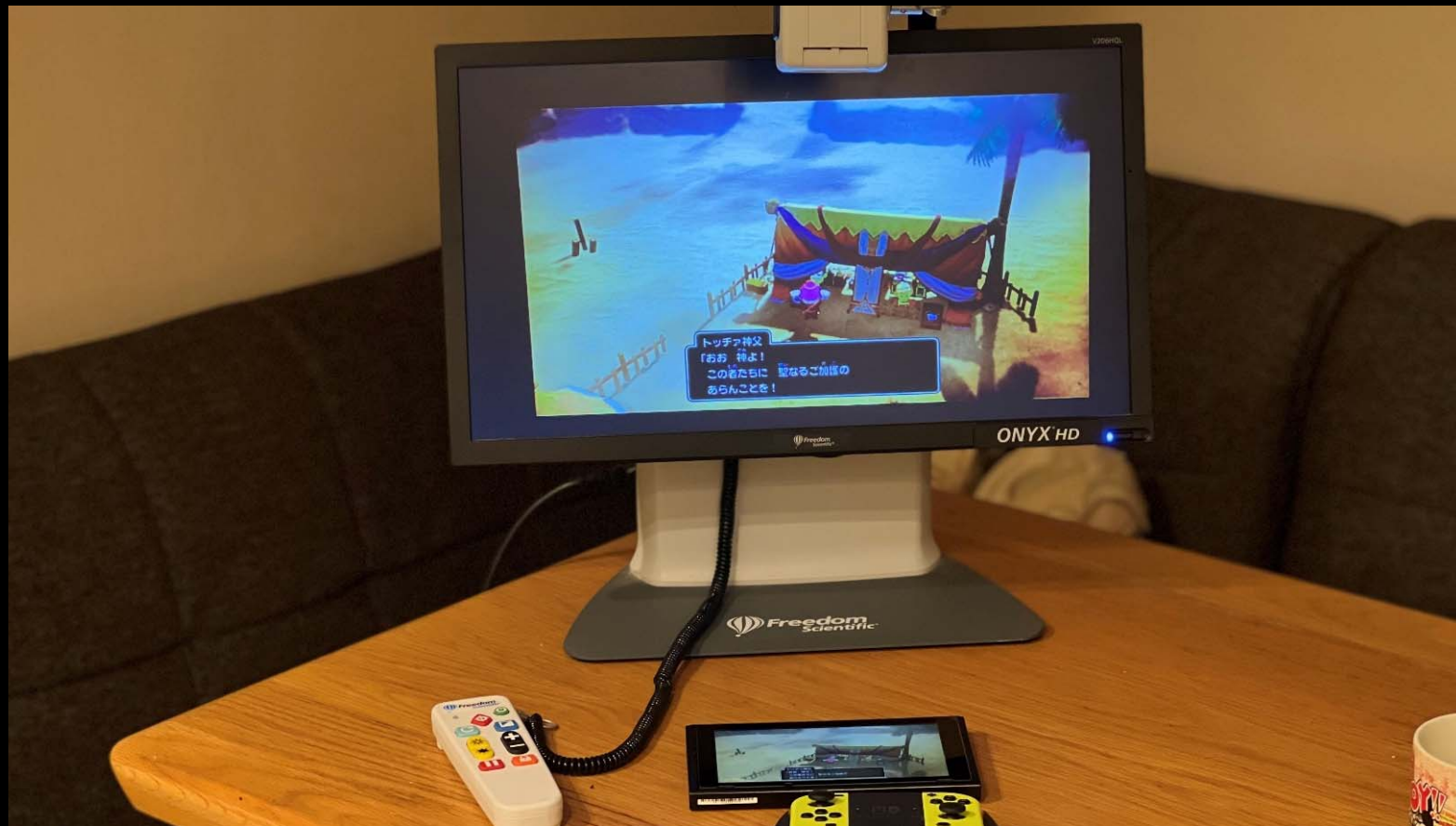
音を手掛かりにするだけではなく、PCのスクリーンリーダーで画面のテキストを読ませながら、攻略サイトを参考に、ポケモンを遊ぶ様子です。



G-1グランプリ2022 入賞作品

ロービジョン者の工夫

拡大読書器は、小型ゲーム機を楽しむために最適な非光学的補助具です。画面の反射が気になるときは、ライトのオン/オフ、明るさ調整をします。



オニキスHDとSwitch

ロービジョン者の工夫

Switchを外でプレイするには、モニターが小さいので遊べません。セカンドモニター(アクセサリー)を活用すれば、外でも遊べます。



セカンドモニター＋変換アダプタ

ゲームのアクセシビリティ

スマホのようにゲーム機にも、読み上げ、文字サイズ、配色等を変更する機能があります。

ポイント

実際に、ゲームを活用した支援事例をご紹介します。ゲームは、お砂糖やお酒と一緒にです。適量接種が健康によく、教育にもよいことを実感してください。

大切なことは何か

ぼくたちは、何のために

- ・ ビジョントレーニングをしているの？
- ・ 視覚補助具の練習をしているの？
- ・ ICTを使おうとしているの？

これらは全て手段であり、目的ではありません。

子どもたちは、友達と一緒にゲームがしたい。

つながりたいから、工夫をしています。

「ゲームをしたい、遊びたい」という自然な気持ちは、視覚リハやロービジョンケアにとって最高のモチベーションになります。



当事者団体とコラボしながら、色々なことに取り組んでいます。

Viwa viwa オンラインイベント情報

あなたの「ちょっと困ったな」を解決するお手伝い!!

かゆいところに手が届く情報が満載! 全てオンライン形式だから、どこからでも参加可能!! 興味のあるコンテンツをチェック!!

【イベント・セミナーの開催情報はviwaのwebで最新情報をチェック!!】

一期一会を大切に、もっと楽しく気楽に私たち障害者が生きる世界を皆さんと一緒に創っていきたくて考えています。ぜひ、人と情報とつながり、あなた自身のちょっとした困ったなを解決してみてくださいね。

子育て支援相談会パパママ会

見えにくい・見えにくいお子さんのいるご家族をサポート!!

地域で孤独に子育てしていませんか? ここには同じ境遇のパパママさんがいっぱい。赤ちゃんの発達から小学校や中学校選び、学校生活、友達関係、将来のことまで何でも相談可◎

視覚障がいのある10代の生徒のしゃべり場 Teenager 限定のコミュニティ

親にも学校の友達にも話せない、けど、話したい、わかってほしい、そんなTeenagerの居場所を提供しています。この取組はNHKの視覚障害ナビラジオにて放送されました。

オンラインセミナー視覚技藝

視覚障がいに関連する最新情報をチェック! これまでに読書バリアフリー、中途視覚障がい者の日常生活の知恵、地域格差、海外旅行、10代の視覚障がい生徒のリアル、アメリカにおける歩行訓練等を取り上げ、講演部分は全て動画で視聴可能。

QRからチェック!

定期的にお知らせを受け取るには無料メルマガに登録!

Facebookでフォローする

Twitterでフォローする

viwaのYouTubeチャンネルで過去のセミナー等を視聴する

【問合せ先】 info@viwa.jp

※メールの送達トラブルを防ぐため送達後、返信がない場合には再送ください。その際、メールに電話番号を記載していただくときちんとお返事ができると思います。 ※なお、これらのイベントは事前申し込み、名義・住所・連絡先・年齢・性別・障害の種別・利用目的の取得を受けて実施しています。

viwa コラボ企画も要チェック

viwa Beauty online

目が見えなくてもいつまでも美しく健康に!
視覚障がい者の「美」と「健康」を極めるセミナー
共催: 株式会社ファンケル
スキンケアからメイク、サプリメントまで女性だけでなく男性向けコンテンツも有

聞けばわかるヘアスタイリング

花王のリーゼを使った聞けばわかるヘアスタイリング。
見えなくても触るだけで簡単に寝ぐせなおしゃれなハーフアップまで音声を聞くだけでできます。
身だしなみ指導にご活用ください。

どこでもヨガ

視覚障がい者のためのヨガをもっと身近に!
聞くだけでできる新感覚のヨガ体験をあなたに
共催: 一般社団法人チャレンジヨガ
~視覚障がい者のためのヨガ~
NPO法人 Inclusive Fellowship Promotion

親子料理教室

親子で楽しくオンラインだから安心・安全にできる料理教室
おかずもスイーツも一緒にできちゃうのに簡単すぎる!
どんなお手伝いがしたくなる料理教室
講師: 家庭料理研究家 柏木京子 先生

ゲームの祭典 G-1 グランプリ

ゲームを通じて障害者と健常者の心のバリアフリー社会を実現!
見えなくても選べるゲームがたくさん。
遊びの工夫・アイデアを共有して「できる」を可視化するプロジェクト。

遠隔教育相談

視覚障がいのことで個別の相談がありましたら、オンラインで対応いたします。ご希望の方はこちらにご連絡ください。

慶知教育大学 相羽大輔 准教授

Viwa 活動へのご協力をお願いします!

① **サポーターとして活動に参加**
オンライン活動をサポートして下さる方を募集しています。当日の受付等の事務的な作業から動画や写真編集まであなたの得意な分野で活動をサポートしてみませんか?

② **チラシ配布等の情報拡散**
情報を必要としている方に必要な情報を届けるためのお手伝いをしませんか? あなたの地域の眼科や盲学校等、視覚障害と関連のある施設にこのチラシを配布・設置して下さる方を募集しています。

③ **本を買って活動に寄付**
下記、2冊の本の売上げの一部はこの活動に寄付されます。

QRからチェック!

お問合せはこちら

次回のG-1グランプリは2023年2月頃の予定です。

**特別支援教育に携わるものとして
伝えたい思い**

最近の話題：対日審査勧告

朝日新聞 2022年9月14日 朝刊 3ページ 東京本社

強制入院や分離教育 廃止勧告 障害者権利条約 日本を国連審査

勧告の主なポイント

強制入院
障害者の強制入院によって自由を奪うことを認めるすべての法的規定の廃止

精神科病院のあり方
隔離・身体拘束、強制投薬など強制治療を正当化する法律への懸念など

施設化
障害児を含む障害者の施設収容の廃止など
インクルーシブ教育
分離された特別教育をやめるため、すべての障害のある生徒が合理的な配慮と、必要な個別の支援を受けられるようにすることなど

障害者権利条約は、障害者に対する差別をなくし、障害者が社会で暮らし、自己決定権を行使し、権利を享受できるようにすることを目的とする。日本は2014年に条約を批准したが、国連障害者権利委員会からの勧告をほとんど履行していない。国連は、日本が障害者に対する差別をなくし、障害者が社会で暮らし、権利を享受できるようにすることを目的とする。日本は2014年に条約を批准したが、国連障害者権利委員会からの勧告をほとんど履行していない。

人口1千人あたりの精神医療分野での病床数

日本医師会の資料から



多い精神科病床 カギで管理も

「日本の精神科病床は、高い割合で鉄の扉で囲まれている」と指摘する。国連の勧告は、障害者が社会で暮らし、自己決定権を行使し、権利を享受できるようにすることを目的とする。日本は2014年に条約を批准したが、国連障害者権利委員会からの勧告をほとんど履行していない。

特別支援学級からの転校 断られ

東京都でも、特別支援学級からの転校が断られている。国連の勧告は、障害者が社会で暮らし、自己決定権を行使し、権利を享受できるようにすることを目的とする。日本は2014年に条約を批准したが、国連障害者権利委員会からの勧告をほとんど履行していない。

2022年10月21日 東京新聞 朝刊 6頁

視点

私はこう見る

城島建治



障がい児教育

分離でなく共に学べる環境を

分断教育は、障害者と健常者が別々の環境で学ぶことを意味する。国連の勧告は、障害者が社会で暮らし、自己決定権を行使し、権利を享受できるようにすることを目的とする。日本は2014年に条約を批准したが、国連障害者権利委員会からの勧告をほとんど履行していない。

最近の話題：対日審査勧告

2022年10月12日 中日新聞 朝刊 5頁

障害者の権利

改善勧告を受け止めよ

国連の障害者権利委員会が、日本の障害者政策を初めて審査し、精神科医療や障害者教育などについて改善を勧告した。

審査は日本が二〇一四年に批准

審査は日本が二〇一四年に批准した、障害によるあらゆる差別を禁じた障害者権利条約に基づいて行われた。勧告に法的強制力は無いが、政府は重く受け止め、改善に向けた方策を講じるべきだ。

権利委は日本の障害者政策が条約の趣旨に合致しているか否かを審査し、総括所見を公表した。

所見冒頭で懸念を指摘したのは日本の政策が、健常者が障害者に「やってあげる」というバターナリズム（父権主義）に偏っているという点だ。

障害者は平等に扱われる権利を持ち、社会はそれを保障する義務があるとの条約の趣旨に反する父

権主義は共生の理念と矛盾し、収容や分離につながりかねない。所見が紙幅を割いたのは精神科医療と障害者教育の問題点だ。

日本の精神科病床数は経済協力

日本の精神科病床数は経済協力開発機構（OECD）加盟国全体の四割弱を占め、平均入院日数も突出している。政府は〇四年、入院医療から地域生活への転換に向けた改革を打ち出したが、成果は

乏しい。主な原因は医療保護入院など強制入院の制度にある。所見は強制入院を障害を理由と

する差別と断定し、制度を認める全ての法律の廃止を要請した。大胆な提案のようでもあるが、先進国ではすでに在宅医療が主流であることを想起すべきだろう。

患者が病院内での虐待や非人道的な扱いを外部に報告しやすい仕組みの創設や、加害者の刑事処分

を見逃さないことも勧告した。

共に學べる「インクルーシブ（包

共に学べる「インクルーシブ（包摂）教育」に関する国の行動計画を採択するよう求めた。

政府は通常教育と特別支援教育の選択は本人と保護者の意思によるとするが、教育委員会が特別支

援教育を強く勧めた例は多い。永岡桂子文部科学相も「特別支援教育を中止する考えはない」と述べ

た。勧告を一蹴していいのか。権利委のヨナス・ラスカス副委員長は「分離教育は（大人になっても）分断された社会を生む」と指摘する。傾聴に値する言葉だ。

障害者を締め出す社会は弱く、もろい。政府はいま一度、条約の趣旨に立ち返るべきである。

2022年09月10日 中日新聞 朝刊 3頁

障害児分離教育 中止勧告

日本へ国連委 精神科強制入院 廃止も

に懸念を表明。分断教育の中止に向け、隣国の有無にかかわらず共に学ぶ「フインターシップ教育」に関する国の行動計画を作るよう求めた。通常学校が障害児の入学を拒めないようにする措置も要請した。

精神科医療については、強制入院は障害に基づき差別たと指摘。強制入院による自由の剝奪を認めている全ての法的規定を廃止するよう求めた。

このほか、入所施設で暮

らず障害者が依然として多いことから、地域社会で自立した生活ができるよう政府の予算配分を変えることも求めた。

一六年に起きた相模原市の障害者施設殺傷事件にも言及、日本社会の障害思想や能力主義に起因しているとして、事件を機転するよう求めた。

権利委による審査は八月二十二・二十三、スイス・ジュネーブで日本政府と対面で行われた。審査では、他国に比べ異例の規模となる約百人の障害者や家族らが日本から現地に渡航。権利委に課題を伝えた。日本政府との議論を傍聴したりした。

國連の「障害者権利委員会」は、月二十二・二十三日、アラスカ・ジュネーブルで日本代表と共同で行われた。査書では、他国に比べ異例の規模となる約四百人の専門家から日本が主賓国として選出された。この機会に我々が日本政府の議論の傍聴しに行った。

特別支援教育を巡っては、通常学級に加わらなかった児童がおり、分りたてた状態が続けられているなど

そもそも国連は何を懸念したのか？

(a) The perpetuation of segregated special education of children with disabilities, through medical-based assessments, making education in regular environments inaccessible for children with disabilities, especially for children with intellectual and/or psychosocial disabilities and those who require more intensive support; as well as about the existence of special needs education classes in regular schools;

(b) Children with disabilities being denied admittance to regular schools due to their perceived and actual unpreparedness to admit them, and the ministerial notification issued in 2022 according to which students enrolled in special classes should not spend their time in regular classes for more than half of their school timetable;

(c) The insufficient provision of reasonable accommodation for students with disabilities;

そもそも国連は何を懸念したのか？

(d) The lack of skills of, and the negative attitudes to inclusive education of, regular education teachers;

(e) The lack of alternative and augmentative modes and methods of communication and information in regular schools - including sign language education for deaf children, and inclusive education for deafblind children;

(f) The lack of a national comprehensive policy to address barriers for students with disabilities in higher education, including for university entrance exams and for the study process.

国連は何をわが国に要請したのか？

(a) Recognize the right of children with disabilities to inclusive education within its national policy on education, its legislation and its administrative arrangements, with the aim of ceasing segregated special education, and adopt a national action plan on quality inclusive education, with specific targets, time frames and a sufficient budget, **to ensure that all students with disabilities are provided with reasonable accommodation and the individualized support they need at all levels of education;**

(b) **Ensure access to regular schools for all children with disabilities,** and put in place a “non-rejection” clause and policy to ensure that regular schools are not allowed to deny regular school for students with disabilities, **and withdraw the ministerial notification relating to special classes;**

(c) **Guarantee reasonable accommodation for all children with disabilities to meet their individual educational requirements and to ensure inclusive education;** for the study process.

国連は何をわが国に要請したのか？

(d) Ensure the training of regular education teachers and non-teaching education personnel on inclusive education and raise their awareness about the human rights model of disability;

(e) Guarantee the use of augmentative and alternative modes and methods of communication in regular education settings, including of Braille, Easy Read, and sign language education for deaf children, promote the deaf culture in inclusive educational environments, and ensure access to inclusive education for deafblind children;

(f) Develop a comprehensive national policy addressing barriers for students with disabilities in higher education, including for university entrance exams and for the study process.

意識を含めた勧告のポイント

インクルーシブ教育を推進するために、、、

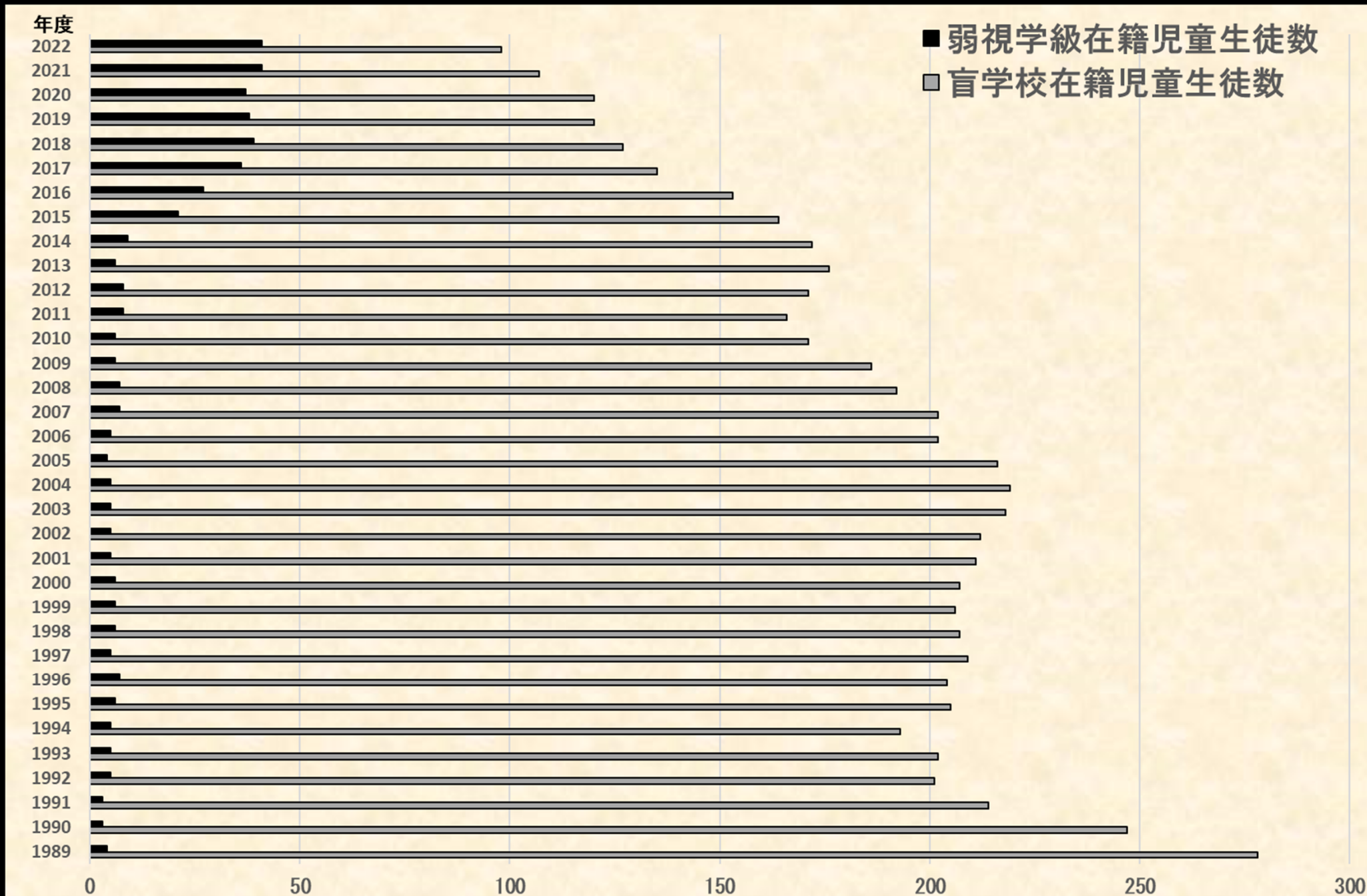
1. 分離教育からの脱却（特に、通常の学級）
2. 全障害児が通常の学級で学ぶ権利の保障
※特に、2022年4月の文科通達の撤回
3. 十分な合理的配慮・環境整備
4. 教員・関係者の研修・意識改革
5. 盲ろう等の児童生徒の支援体制の構築
6. 高等教育へのアクセスの保障

などを改善するよう求めています。

視覚障害は、マイノリティの中のマイノリティです。障害者の中でも声が埋もれてしまうことが多いです。

少なくとも、知的障害、発達障害とはちょっと違う状況にあることを知ってほしいと思います。

例えば、愛知県の実態（視覚障害）



視覚障害の場合は、支援学校の在籍児が減少して、支援学級の在籍児が増加しています。知的障害や発達障害とは異なる実態があります。弱視学級や視覚特別支援学校の支援は、通常の学級での学びの支えになっている可能性があります。それでも、弱視学級や視覚特別支援学校はいらないのでしょうか？

例えば、イギリスでは

インクルーシブ教育を推進するために、、、

1. QTVI等というプロ教師が支援にあたる
2. 通常の学級といっても、拠点校方式が多い
3. 必要な予算措置が十分になされている
4. 高校レベルは特別支援学校が選ばれる

イギリスのウースター盲学校

<https://www.ncw.co.uk/>

点字、歩行、ICT、視覚補助具、視知覚認知、
触察・拡大・音声教材作成、ピアサポートの
視点等のように、領域固有の専門性を持つ教
師がどこで学んでも配置される制度が作れた
ら、視覚障害児は地域で学べるはずです。

引用・参考文献

- ・ 相羽大輔・河内清彦（2010）弱視学生に対する健常学生の交流抵抗感に及ぼす障害開示の効果について．特殊教育学研究，48(4)，263-273.
- ・ 相羽大輔・河内清彦（2011）弱視学生の援助要請に対する健常学生の援助遂行可能性に及ぼす個人要因の効果について．障害科学研究，35，7-18.
- ・ 相羽大輔・河内清彦・柿澤寿文（2013）移動，読み，書きに関する援助要請課題における弱視学生の支援ニーズ，援助要請意図，個人要因の関連について．障害科学研究，37，27-37.
- ・ 相羽大輔・増田雄亮・尾原健太・奈良里紗・佐藤由希恵（2020）視覚障害教育におけるソーシャルスキルアセスメントツール(試案)作成の試み．障害者教育・福祉学研究，16，75-83.
- ・ 相羽大輔・三宅琢（2021）ゲームのアクセシビリティが視覚障害児・者の医療・教育に与える価値．障害者教育・福祉学研究，17，79-83.
- ・ 相羽大輔・奈良里紗（2019）弱視学生支援サービスに対する健常学生の妥当性評価とそれに及ぼす個人要因の影響．高等教育と障害，1(1)，13-23.
- ・ 相羽大輔・奈良里紗・増田雄亮・鈴木祥隆（2019）見えにくさを補う手段の違いが弱視学生支援に対する健常学生の態度に及ぼす効果．障害科学研究，43，47-58.
- ・ 相羽大輔・渡辺正人・奈良里紗（2021）弱視児に対する視覚補助具の使い分けに関する指導実践—視覚補助具の活用効率や主体的な選択に着眼して—．障害科学研究，45，285-298.
- ・ 相羽大輔・矢吹康夫（2013）当事者団体によるアルビノの支援活動—子育て支援と社会への理解啓発を中心に—．弱視教育，51(2)，20-25.
- ・ 石井更幸(編)（2017）アルビノの話をしよう．解放出版.
- ・ 川名紀美（2013）アルビノを生きる．河出書房新社.

関連団体・コンテンツ等

相羽研究室が作成した弱視児の理解教育・福祉教育のデジタル教材



日本アルビニズムネットワーク

www.albinism.jp

(特) Inclusive Fellowship Promotion

www.team-ifp.com/wp

公益社団法人NEXT VISION

<https://nextvision.or.jp/join/g1-grand-prix/>